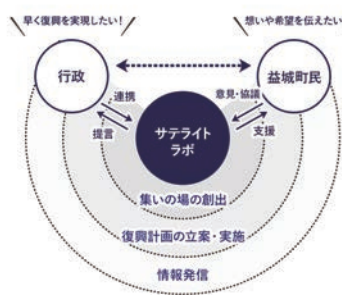


OVERVIEW



サテライト研究室 熊本大学ましきラボ

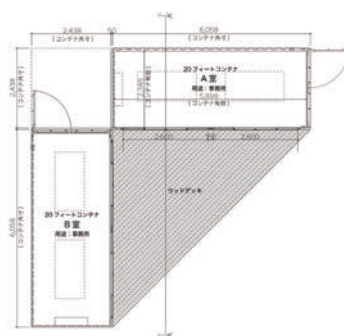
熊本大学による「熊本復興支援プロジェクト」の一環として、地震発生からおおよそ半年後の2016年10月19日、最も被害の大きかった益城町の復興支援拠点として、「ましきラボ」は開設されました。



Rolls of ましきラボ

持続可能なコミュニティを創出・支援する場の構築

- 熊本地震からの復興を目指した研究拠点の形成
- 被災者支援の学生ボランティアの拠点としても機能
- 住民が将来の姿をデザインできるようなまちづくりの拠点
- 住民の想いを集約し復興計画へ反映させる行政支援
- 復興ニーズと本学の研究シーズを邂逅させる研究教育



Design of ましきラボ

2つのコンテナがつくりだすまちの舞台・縁側

豊かな桜並木の河川空間に開く舞台のように2つのコンテナをL字状に配置し、ウッドデッキを縁側のように設え、屋根をマルシェのように架けることで、住民が立ち寄りやすく、居心地がよく、そして様々な活動がしやすいようなラボとしてデザインしました。コンテナの側面を開放することによりデッキスペースを含めて一体的な大空間となり、時には河川空間まで拡張したイベントや講演会等も開催可能です。



145

オープンラボ開催数(2020年2月時点)



2,273

イベントへの市民参加人数(2019年7月時点)

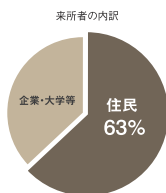


10

出張イベント回数(2019年7月時点)

オープンラボ

毎週土曜に教員と学生がラボで待機し、来所者から様々な意見を伺い、記録に残しています。益城町では道路の4車線化および区画整理事業、災害公営住宅等多くの事業が動いており、これらの計画に関わっている教員が滞在することで住民の不安・悩みを解消しています。



市民参加型イベント

ましきラボのオープン以降、これまで市民参加型イベントを20回以上開催することができ、多くの方に越え頂きました。市民参加型のイベントでは、ミニ勉強会や学生による発表会などのほか、梅酒づくり(梅仕事)などの体験型イベントも行っています。また、ましきラボのオープン日にあわせ、毎年秋には周年イベントを企画しています。



出張型イベント

より多くの方々と復興に向けた活動を行うため、ましきラボ外でのイベントの実施や他団体主催のイベントへの参加を行っています。特別ゲストを迎えたイベントや来所者の発案から生まれたイベントなど、ラボを介して複数の企業・発案者とコラボレーションできるラボの強みを活かしたものが数多くあります。

